

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルデーテ		
事業所名	グループホーム よろこび (しあわせ館)		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	令和7年10月14日	評価結果市町村受理日	令和8年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症カフェを開催することで、地域との交流ができるようになりました。町の広報でも広く周知していただいたことと、グループホームよろこびを町民の方々にもさらに知ってもらえる機会となり、職員の意欲の向上にもつながったと思います。介護員は子育て世代から年配者まで幅広いため、お互い助け合って日々の介護を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの事業所は岩泉町西部の国道沿いの高台にあり、周囲を緑の山々に囲まれた自然環境豊かな場所に立地している。開所から8年目を迎えており、一昨年4月に理念を見直し、利用者の気持ちに寄り添った支援を続けている。大半の利用者が地元の済生会岩泉病院の訪問診療を受診しており、医療連携体制は確立され、また、看護師職員の存在も安心感がある。重度化した場合でも、特養施設等との連携が良く図られているため、住み替えの際も迅速に進むよう支援できている。地域との連携にも注力し、今年からは事業所が主催して認知症カフェを毎月開催しており、地域の高齢者から喜ばれている。また、食事の提供に際しては、利用者の嗜好を各職員が十分に把握して、地元の野菜や果物をふんだんに利用して提供している。災害の対応においては、防災士資格を有する複数の職員を中心に、夜間避難訓練を夕方の暗くなる時間帯に行うなど、実践的な訓練が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員で考えた理念を一日の始まりの申し送りの時に唱和し「笑顔で相手の気持ちに寄り添い思いやりの心」を共有している。	開設5年目となった一昨年4月に、全職員が参加して理念の見直しを行い、「笑顔で相手の気持ちに寄り添い思いやりの心」と改めている。この理念を事務所やホール内に掲示しているほか、毎朝の朝礼で唱和して職員への浸透を図っている。また、各ユニットでは毎年度の目標を立てて介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の回覧版で広報を回覧し、運営推進委員を通して地域と施設間で情報交換している。令和7年6月から月一回、認知症カフェを開催し利用者との交流もできるようになりました。地元での散髪も継続している。	自治会に加入し、事業所の広報を回覧板で提供し地域の方々の理解促進を図っている。今年6月から事業所が主催して認知症カフェを毎月開催しており、地域からは10人ほどの参加者があり好評を得ている。また、地元の婦人会「恵友会」から10人程が来所して歌や踊りを披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	広報などを配布し事業所の様子をお伝えしている。認知症カフェを今年の6月から毎月開催し認知症の方について理解していただけるよう活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に参加していただいた地域の方の意見を参考にしている。家族の方からの意見を直接行政に伝える事が出来ている。	運営推進会議の委員は、民生委員4人や地区の自治会長、消防分団長、家族代表、地域包括支援センター職員等で構成されバランスが良い。利用者の状況や行事などの報告とともに、携帯電話の利用方法についての悩みなども話し合ってもらい、活発に意見交換が行われている。11月には夜間避難訓練の状況を見てもらいながら会議を開催する計画がある。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から連絡を取り協力関係を築くようにしている。 役場に週に一回、担当者が行き情報交換や相談をしている。	町独自の情報手段である「ぴーちゃんねっと(TV電話)」を活用して、町からのお知らせや災害情報などを得ている。また、週1回は担当者が役場に出向いて相談や情報交換を行っているほか、年2回ほどの地域ケア会議にも参加して町内での連携を図っている。生活保護を受給している利用者がおり、担当のケースワーカーは状況把握のため定期的に来所している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に社内研修や委員会で話し合い取り組んでいる。 利用者の行動を制限しないよう希望や訴えを尊重出来るケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3カ月に1回、定期的に開催し、内容を全職員に周知している。職員への研修も年2回行っている。スピーチロックについては、該当する言葉が出された際に、個々に管理者から分かり易く指導することを心掛け、改善されてきている。家族の了解を得て、転倒防止のためのセンサーマットを使用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングで取り上げ、日常的に注意していかなければならない事を話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	オンライン研修とユニット会議で取り上げ学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明し理解していただけるよう努めている。 不安や疑問は後日でも説明し納得してもらおうよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で家族の意見を直接うかがうことが出来ている。 請求書の発送に各担当者が普段の様子を写真入りのお便りで出している。 家族からは普段の様子が分かるので嬉しいという声がかかれる。	運営推進会議に家族代表が参加しており、意見を伺うようにしているが、感謝の言葉が殆どである。また、家族が面会で来所した際にも伺っている。家族にアンケート用紙を配布したところ、請求書をメールで送付して欲しいとの要望があり対応している。家族には毎月、利用者の写真付きでお手紙を送付しており、良い評価を頂いている。	家族アンケートにはあまり回答がない状況だが、これは家族からの要望等を汲み取るための有効な手段と思われるので、さらに工夫を加え回答しやすいアンケートとして継続されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議で会社側、職員側の意見を出して話し合っている。 水分補給のためのクーラーボックスの購入や利用者の預かり金、現金で購入する食材費など、現場の声をしっかり聞くよう努めている。 食材の購入について調理の人たちが会議をして会社に提案して実行されている。	毎朝の朝礼や月1回のユニット会議で職員から様々な意見が出され、職員と話し合いながら支援の方法等を調整している。また、職員の提案に基づき、食材の購入方法を改め経費の節減を行っている。年に1回、社長との個人面談が行われ、各職員の要望を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の家庭環境に配慮し、子育て中の職員にも安心して働けるよう時間調整や緊急時の対応に努めている。 努力や実績を認め、向上心が持てるよう給与面を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりに合わせた研修の参加の提案をしたり希望をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域ケア会議や日々の業務の中で情報交換をしている。 職員の交流はできていないので、計画していく(新型コロナウイルスが多かったこともある。)		

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様が入居してから落ち着かれるまでは特に不安なことや要望を会話や関わりの中からも聞き取り、住む環境が変わっても、好きなことややりたいことが続けられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族からの電話で様子を伝えて安心していただけるよう努めている。 毎月の写真入りのお便りでさらに詳しく報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族の意向を理解し本人の状態を確認しながら、職員間で気づいたことを話し合い進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様が出来る事、得意なことで役割を持っていただき、生き生きと生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	遠方のご家族様が多いため写真入りのお便りを毎月送って現状を報告している。		

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	携帯に電話があれば会話していただき、隣の棟と行き来し顔を見て会話を楽しまれている。友人、知人との面会や馴染みの美容院に行くなど行っている。	入居前に事前面接を行い、本人や家族から地域での関係性などを含めて生活歴等の把握に努めている。地元美容院や理容店に定期的に出かけて楽しい時間を過ごす方もいる一方で、多くの利用者は地元から来訪する訪問理容を新しい馴染みとしている。また、事業所で開催する認知症カフェで昔なじみに会って楽しんだり、地元から来訪する踊りのグループの友人と再会を喜ぶ方もいる。家族がお墓参りに連れ出したり、実家に外泊する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食席は決めているが、ご本人様の意思を尊重し自由に交流している。 ご本人をしっかり知ること、日々の生活でも望んでいること不安なことを確認しながら孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設を移った方を訪問し、本人と面談したり家族からの相談等は電話で行うことが多い。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に合わせ、可能な限り対応するよう努めている。 パーマをかけたい、毛染めをしたい等。 普段と様子が違うときは何か不安があるのか等は声掛けをしたり、意向の把握に努めている。	半数以上の利用者が思いや意向を言葉で話すことができおり、食べ物や外出の希望が多くなっている。食べ物ではあんこやラーメンなどが多く、ドライブの途中で立ち寄って食べることを楽しみにしている。言葉で表わせない利用者からは、例えば入浴の際に職員がゆっくりと話しながら聞き出すなどして、思いの把握に努めその実現に注力している。	
----	-----	---	---	--	--

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に利用したデイサービスからの情報や家族からの情報をもとにして、施設での生活に変わったことで大きなストレスにならないよう、本人の好きな置物や家族の写真等を飾り落ち着ける工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのペースに合わせ、拒否があったら無理強いせず必要に応じてタイミングを変えて再度声掛けをするなどしている。(趣味に集中する方もいる。) 他の職員とも情報共有しながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや日々の介護の中でご本人様の現状について気づきや改善点を話し合い計画書を作成している。	介護計画はケアマネが作成しており、カンファレンスにおいて全職員で検討し、修正したうえで家族の承認を得ている。計画は短期で3か月、長期の方は6か月毎に見直し、モニタリングも全職員が参加して行っている。家族からは散歩させてほしい、好きな編み物をさせて欲しいなどの要望もあり、これらは計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎朝、各棟の日勤が朝礼で話し合い、棟に戻りスタッフに利用者の日程や状態を報告し情報共有に努めている。 看護師にも相談し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	食べたいもの、美容院への外出、歯科治療の希望があり希望に添えるようその都度対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人様の希望に沿って美容院に来ていただいたり、出向いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療は月二回、同町の病院の医師が来てくださっている。 その他には、急な体調変化等、リーダー、ナース、家族に相談し早めの受診を心がけている、他には地域の歯科診療所を利用している。	利用者全員が、協力医療機関である済生会岩泉病院をかかりつけ医とし、月に2回の訪問診療を受診している。訪問診療のため職員や家族の通院付き添いの負担がなく、医師や看護師との連携も十分に図られている。訪問診療には薬剤師も同行しており、服薬の説明を受けている。歯科は近くの小川歯科診療所を利用している。精神科、眼科、整形外科に通院している利用者は今のところいない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に連絡相談を行い、変化や気づきを早急に伝え相談し、必要な受診が出来ている。看護師は利用者一人ひとりを見て介護職に助言や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を密にし情報交換を大事にしています。普段から医師、看護師、相談員、薬剤師と顔の見える関係作りに努め、いつでも相談できるようにしている。		

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に自分で立位できず入浴が困難となった場合は事業所としてできることを説明したうえで医療や他施設の情報を伝え不安や心配があるときは相談しながらしっかり考えてもらっている。	事業所では看取りはしておらず、入居時に本人や家族には概ね介護度3ほどになったり、入浴時に浴槽を跨げなくなるなどの場合には、特養等への住み替えを勧めることを予め説明している。事業所での生活をギリギリまで支援しているが、済生会病院に入院した場合、退院後に町内の特養に入所する方が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急要請の手順は各棟のスタッフデスクそばの壁にかけている。 今年度も応急手当や初期対応の訓練を実施予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に一回は消防署の立ち合いで行っている。防災士の職員を中心に非常食の管理、補充を行っている。 今年度は運営推進会議に参加してもらい訓練を実施予定。(11月)	当地区はハザードマップでは浸水や土砂崩れの指定区域外であるため、避難訓練は火災想定で年2回行っている。事業所には防災士の資格を持つ職員が2人おり、避難訓練等では先頭に立って指揮している。夜間想定訓練は11月頃の夕方の暗くなる時間帯に実践的なものとして実施している。また、職員の多くが事業所から5分以内の場所に居住していることも心強い。十分な食料や水、発電機等を備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの思いや希望、その方の性格なども職員間で話し合い、関わり方にも注意している。トイレに鍵をかける方には”使用中”のプレートにもらっている。	利用者の人格を尊重して、声掛けは「さん」付けで行っている。トイレ誘導の声掛けなどは、周りに聞こえないよう、当人に近づいて話したりジュスチャーで伝えたりして工夫している。また、排泄で失敗した場合には、本人の羞恥心に配慮して、さりげなく着替え等の対応をするよう心掛け実践している。入浴時や排泄ケアの際には周りから見えないよう配慮している。	
----	------	---	---	---	--

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が希望や思いを話さないときは日常の会話の中や、入浴時に本人が話してくれたことを拾い上げ可能な限り支援できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体調の変化で起床時間が遅くなったり、水分補給の時間に外のイスに腰かけていた時はご本人様に確認しながら居室で食事を摂ったり外のイスでお茶を飲んでいただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様が希望する化粧水やクリームを購入したり散髪の支援をしている。 眉毛を描いてほしいという方には女性職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものがありますか、と聞きリクエスト食を時々作っています。 食後茶碗拭き、時々団子づくり等、手伝っていただいています。	職員が献立を作成し、ユニット毎に調理している。利用者の嗜好内容はキッチン内に貼り出しており、なるべく好みの食事を提供できるよう配慮している。ご近所や運営推進委員などから野菜等の差し入れも沢山いただいている。利用者は下拵えや片付けなどを手伝っている。おやつ作りを週に1回程度楽しんでおり、ホットケーキや伝統的な「ひゅうず」などが好まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	三食の食事、午前、午後の水分補給状況、状態に応じて水分補給をしている。 食事は一人ひとりの状態に応じて支援している。 残食が続いたときは看護師、介護員と相談し対応している。		

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その方のタイミングに合わせて声かけをしている。 スタッフ間で対策を教え合い支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレの声かけのタイミングが合わないと拒否がある等自立にむけての支援が難しいこともあるが普通の下着の方6名(パッド2名)を継続していきけるよう支援していく。	利用者のうち12人はリハビリパンツ使用で、他は布パンツで自立し、全員がトイレでの排泄となっている。5人は夜間にポータブルトイレを使用している。排泄チェック表を活用しながら適時の声掛けや誘導を行っており、入居して改善傾向にある方も多い。便秘対策として水分補給にも力を入れており、1日1,500ccの摂取を目安に麦茶クーラーも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便チェックを行い必要な時には看護師に相談し服薬などでコントロールしている。 食前に体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴の日を決めご本人様の状態に合わせて、入浴剤を使用したり楽しんでもらうようにしている。	週2回の入浴を基本とし、利用者の意向を踏まえタイミングに合わせて声掛けをしている。入浴中はリラックスして昔の話をしたり、歌を歌ったりして楽しむ方が多い。また、職員と1対1になる時間でもあり、会話の中から本人の思いや意向などを聞き出す機会にもなっている。入浴剤を楽しむほか、入浴後には保湿クリームも使用し喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	気温に応じて室温調節し、部屋の明るさを調整したり、本人の希望に合わせている。 どうしても暗い方が良い方には足元センサーを設置している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の担当者を決めて、担当者と看護師が中心となっている。 各利用者の担当者は服薬状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	編み物、読書を好きな時間を楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外気浴希望時は散歩も兼ねて支援を行っている。 家族と自宅に帰ってきたり受信時に兄弟の家で食事をしたりしている。	外出の機会を楽しみにしているため、お花見では龍泉洞や近くの斐綿地区に出かけ、紅葉狩りでは道の駅三田貝分校近辺にドライブで出かけている。早坂高原にはツツジ見物などで出かけ食事を楽しんでいる。天気の良い日には、ほぼ全員が事業所の周辺を散歩したりテラスで日光浴を楽しんでいる。また、美容院やお墓参りに家族と出かけている方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で少しでも持っていたい方は家族に了解をとり持っていただけるが、今の時点では全員、金庫で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の状態や様子など写真をコピーして、その下に手紙を書いてご家族様に伝えています。 ご家族様から電話があった時は子機を使い居室でゆっくりお話していただいています。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび (しあわせ館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	庭に咲いた花やスタッフが持ってきてくれた花をホールに飾ったりデッキや廊下からも花が見えるよう工夫している。 好きな場所でくつろぐことが出来ている。	玄関と事務室を挟んで左右にユニットが分かれ、ホールからは全室の出入りが見渡せる。壁面の色はクリーム系で明るく落ち着いた雰囲気となっており、エアコンと加湿器により空調は快適に保たれている。壁には季節の花や利用者の塗り絵等の作品が飾られ、高台にあるため窓からは雄大な自然の山々を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関先にベンチを置いて、好きな時間に一人や数人で話をしたりお茶を飲んだりしている。 一人になりたい時などは居室に戻られ好きな野球を観たり思い思いの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安全に配慮しながら支援している。 一人ひとりご家族様の写真やテレビを置いたり製作品を飾ったりしている。 空調も快適に過ごせるよう努めている。	居室にはベッドとチェストが備付けられ、エアコンと加湿器、24時間換気装置により快適な環境が保たれている。利用者はテレビや衣装ケース、家族写真などを自宅から持ち込み、壁面には行事の写真や塗り絵の作品などが飾られ、居心地のよいスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ることは声掛けして利用者様にさせていただき、朝の身支度などはさせていただいています。 心身の状態を考えながらトイレの近くの居室にしたり動線を考え安全に移動できるよう工夫している。		